

大豆情報

秋田地域振興局農林部農業振興普及課
No.1

Tel 018-860-3410

Fax 018-860-3834

適期中耕・培土で初期生育を確保しましょう！

1 作業状況

秋田管内の播種作業の盛期は6月12日(平年差早1日)であり、播種作業は概ね平年並に進みました。

出芽は概ね順調で、播種が早かったほ場では中耕が行われています。

2 中耕・培土

中耕・培土は雑草防除、倒伏防止、湿害回避等の効果があり、大豆の生育向上を図るうえで重要な作業です。適期を逃さずに作業を行いましょう。

- ①中耕 …… 初生葉展開期～本葉1葉期頃に子葉が隠れない程度に行います。株元にしつかり土を飛ばし、株元からの雑草の発生を抑制します。
なお、中耕を行うことで播種直後に散布した除草剤の土壌処理層が壊れ、効果がなくなりますので、雑草の発生がみられない場合は省略できます。
- ②培土(1回目)…… 本葉第2～3葉期頃に初生葉が隠れない程度に行います。
- ③培土(2回目)…… 本葉第6～7葉期頃に、本葉1葉目の節が隠れない程度に行います。
培土は、株元までしっかりと土が盛られるように、遅くとも開花10日前には終了してください。

3 害虫対策

1)ウコンノメイガ

ウコンノメイガは、7月6半旬(26～31日)に40～60茎当たりの葉巻数を調査し、茎当たりの平均葉巻数が1.3個以上確認された場合は、8月上旬までに薬剤防除を行います。

農作物病虫害発生予察情報発生予報第3号(6/25、病虫害防除所発表)によると、ウコンノメイガの発生量は平年並とされています。本種は飛来性害虫であるため、急激に発生量が増加する場合がありますので今後の予察情報に注意してください。



写真 ウコンノメイガによる葉巻

表 ウコンノメイガの薬剤散布

農薬名	希釈倍数	散布液量	散布時期
カスケード乳剤	4,000倍	150～300L/10a	7月下旬
スミチオン乳剤	1,000倍		～
トレボン乳剤	1,000倍		8月上旬
プレバソンフロアブル5	4,000倍		

2) 食葉性鱗翅目幼虫(ツメクサガなど)

農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(6/25、病害虫防除所発表)によると、食葉性鱗翅目幼虫の発生量は多いと予想されています。

防除対象がツメクサガの場合には、6月中旬～7月中旬、8月上旬～中旬にエルサン乳剤1,000倍、トレボン乳剤1,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍液を100～300L/10a散布してください。老齢期になると防除効果が劣るので若齢期(発生初期)に防除しましょう。

4 雑草防除

当面の雑草防除は中耕・培土により行いますが、中耕・培土で雑草を抑えられなかった場合などは、大豆生育期処理除草剤を使用します。除草剤の種類により使用可能な時期が異なるので、使用基準に注意してください。

また、農薬散布時にほ場周辺の他作物へ薬剤が飛散しないよう、ドリフト軽減ノズルの使用や散布時の風速、風向き等に十分注意しましょう。

農薬名	使用時期	使用量	希釈水量	対象雑草	
				イネ科	広葉雑草
パワーガイザー液剤 ^{※1}	だいず出芽期～1葉期	300ml/10a	100L/10a	○	○
ナブ乳剤	ノビエ3～5葉期	150～200ml/10a	100～150L/10a	○	×
ワンサイドP乳剤	ノビエ3～5葉期	75～100ml/10a	70～100L/10a	○	×
ポルトフロアブル	ノビエ3～8葉期	200～300ml/10a	100L/10a	○	×
大豆バサグラン液剤 ^{※2}	だいず2～6葉期	100～150ml/10a		×	○
アタックショット液剤 ^{※3}	だいず4～6葉期	30ml/10a		×	○

※1中耕・培土及び他の茎葉処理剤との体系処理を前提にする。処理後3日間の平均気温が16℃を下回ると予想される場合や処理後に連続した降雨が予想される場合は、強い薬害が生じるおそれがあるため、使用しない。

※2適用品種はリュウホウとする。ツメクサやエノキグサ、シロザ等には効果が劣るので、発生に注意する。

※3タデ類やアメリカセンダングサに対して効果が劣る。処理後3日間の平均気温が17℃を下回ると予想される場合や処理後に連続した降雨が予想される場合は、強い薬害が生じるおそれがあるため、使用しない。

5 大雨対策

6月23日に東北地方が梅雨入りしたほか、6月27日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、降水量は平年並か多いと予報されています。昨年のような集中豪雨が発生する可能性もありますので、冠水・浸水した場合は下記に留意しましょう

- ① ほ場の見回り等については、事故防止の観点から気象情報などを十分に確認し、二次被害にあわないよう注意して行ってください。
- ② 排水路や明きよの点検を行いましょ。明きよの溝が崩れている箇所や浅くて流れない場所があれば、手直しをして排水に努めましょ。 畝の方向で停滞水が残る場合は、畝を切って近い明きよへ導水します。
開花前的大豆は、ほ場の乾燥後に速やかに培土を行い、新根の発育を促すことで、草勢の回復を図ります。
- ③ 湿害により生育不良となったほ場における、湿害軽減対策として窒素追肥の効果が認められています。 追肥は開花期(開花日～開花後10日頃)に硫酸や尿素を用い、窒素成分で10a当たり5～10kg施用します。(参考:管内の開花盛期(平年):7月29日)
- ④ 冠水や停滞水の影響で、茎疫病や黒根腐病等の土壌病害の拡大が予想されます。 こまめにほ場巡回を行い、罹病株を確認した際には早期に抜き取ってください。